

ネット起業 家庭を救う

専業主婦から転身／家業の倒産乗り越える

「会社が倒産、主人は失業。数百万円の借金が残った」。五年前、家庭を襲った窮地に一念発起し、四十歳でインターネットのホームページ(ウェブ)デザイナーとして起業した元「芦屋夫人」が、電子書籍の普及に取り組んでいる。ゼロから起業した経験と電子書籍として今年四月に出版したところ、予想を大きく上回る反響があった。「やればできる」という勇気をプロードバンド(高速大容量)の追い風に乘せて配信している。

え、異業種交流会なども積極的だ。「関西から文化力」を合言葉に文化庁の河合雄雄長官が提唱している「関西元文化圏構想」に賛同してセミナーを企画、関連事業として認可を得た。

中島さんは五年前までは兵庫県芦屋市の高級マンションに住む専業主婦だった。愛媛県で生まれた中島さんは大阪教育大に進学した後、アシスタントディレクターとして在阪のテレビ局に勤め、一年後に結婚退社。四十歳まで幸せな生活が続いた。

「電子書籍を使った情報発信は簡単に素晴らしい可能性があります。みなさんも関西の元気なパワーを発揮してください」。七月十日、大阪府立女性センターの「電子書籍で情報発信」と題したセミナーで、コーディネーターの中島美佐穂さん(44)は約五十人の来場者に呼びかけた。

40歳までは順風 転機は99年に

中島さんはホームページの制作などを手掛けるSOHO(スモールオフィス・ホームオフィス)企業「ZERO Web&design」の代表。四人の契約スタッフを抱



自宅をSOHOとしてホームページの受注制作に追われる中島さん(兵庫県西宮市)

を迎えたところからだ。

中島さんの集客力の高いホームページは年を追うごとに口コミで評判が広がり、ノウハウを教えてほしいという要望も相次いだ。苦勞して身につけたノウハウは抱え込むのが普通だが、周囲の様々な人に支えられた中島さんは、同じ思いや境遇の人に対して「自分と同じ苦勞や回り道をしてほしくない」と考えた。

「反響絶え間なし」さらなる事業も

「普通のおばさんでもネット起業できる」ということを知ってほしい」と考え出版を思い立ったが、資金も乏しく商業出版は難しい。そんな時、電子書籍の出版ノウハウの紹介をネットで発見。それに習って、自身の経験と蓄積したノウハウを、電子書籍「たこ焼きのネット」でタコタコ儲けまよー(<http://owebus/ebook/>)としてホームページで出版した。

これが二度目の転機だった。経験や実績を踏まえた初心者向けの内容に加え、人生

学なども生かせそう」とはいえパソコンの本格的な知識はない。専門学校は授業料が数上万円単位と高額。学校はあきらめ、独学で百冊を超える本を読みあさった。疑問点はネットで知り合った先輩たちに聞いて回り、二〇〇〇年春、ウェブデザイナーとして起業

した。仕事がなかなか入らない状況が半年続いた。仕事があっても最初は失敗の連続。あれこれ情報を詰め込んだホームページは重く、受けが悪かった。利用者の視点で考え直し、パート代を上回る収入が得られるようになったのは二年目

経験をちりばめ、関西風のお笑いの要素を織り込んだ話し言葉でわかりやすい文体が受け、反響がひっきりなし。株式投資についての電子書籍を出版したり、ウェブデザイナーを目指す読者も現れた。「出版社が少ない関西でこそ」と事業化を決めた中島さんは今、電子書籍出版のコンサルティングなどを手掛ける「e Pub事業」を準備中だ。

新たなホームページの立ち上げを急いでいる。

もちろん、はた目みるほどネット起業は簡単ではない。ただネットビジネスを副業とする週末起業家は増えており、個人の日記をネット上で公開するブログ(ウェブログ)が普及するなど、ネットを活用した情報公開の機運が急速に広がっている。松下電器産業やソニーなどが電子書籍のハードを相次ぎ発売したのも追い風だ。

「何かに挑戦してみようか」という興味はあっても、きっかけがなかった」と振り返る中島さん。逆境をバネに新境地を開拓するパワーあふれる女性は少なくないはずだ。

(大阪経済部 染谷好信)

経済・文化情報がいっぱい
日経ネット 関西版
Kansai
<http://www.nikkei.co.jp/kansai/>